

S S T L

職場参加ニュース

NO. 80 2023. 5. 18

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会2023年度定期総会
6月18日(日)13時〜14時20分 越谷市中央市民会館5階2,3会議室
会員の方でご欠席の方は委任状の提出をお願い致します。総会后同じ会場で記念講演を開催します。



総会記念講演会 診療所から見える世間 —滝山病院を必要とする社会とは— 講演 小原 基郎さん

6月18日(日) 14:30-16:30 受付14:20〜
越谷市中央市民会館5階2,3会議室
会費(資料代): 会員500円 非会員700円
コメンテーター: 依頼中
手話通訳: 依頼中 後援: 越谷市、春日部市(いずれも依頼中)

【小原さんプロフィール】

精神科医、小原クリニック勤務。精神科病院での勤務を経て、まだ精神科の診療所は成り立たないと言われていた時代に診療所を開業。

診療所での診察の傍ら、県社会福祉課嘱託医、保健センター嘱託医、自立支援認定審査会委員、県教委健康審査会委員、リハビリセンター嘱託医などの経験もされている。

小原クリニック開院から33年。精神科診療所は急増したが、精神科病院のベッド数は、絶対比でも人口比でも世界一の日本。なぜ日本社会はそれを必要とするのか？

パネルディスカッション 後半—地域共生の現在

「障害者の職場参加」の水脈から地域共生の現在をたどる

パネリスト：木村俊彦さん（キャベツの会事務局長、元新座市議）、猪瀬良一さん（見沼たんぼ福祉農園代表）、猪瀬浩平さん（NPO 法人のらんど代表理事、明治学院大学教授）、沖山稚子さん（相談支援事業所「世一緒」所長、元障害者職業総合センター主任研究員）、樋上 秀さん（たそがれ世一緒管理人、元重度障害者職業自立協会の店吐夢亭店長）、

コメンテーター：内田元洋さん（越谷市地域共生推進課副課長、黒沢和人さん（越谷市障害福祉課副課長）

コーディネーター：山下浩志（当会事務局長）



山下 日本は9月に国連障害者権利委員会から勧告を受けているように、雇用の場でも学校でも、さまざまな形で分けられている。そことどう向き合い、共に生きる地域を探って来られたか。

木村 地域が変わっていくためには障害福祉の中から石を投げていくだけではダメ。自治会や民生委員を含めて変えようと足場を移した。高齢の人たちの中でだんだん最初のメンバーが車いすになったり認知症になったりした時、障害の人たちがいた場所だから、そうなっても来ていると、周りが付き合い慣れてくる。

全部サービスで埋めるのは無理、高齢化社会を実現するには学校の時から分けてはだめだと、そんな当たり前のことをどう展開していくかだ。

猪瀬良 私は今ほとんど農園に行けない。障害者になっちゃって、そういう感じ。改めて障害者になることを考えているのが現実。農園にやっぱり行きたい。でも行けない。それが一番の自分にとって困難なことだね。

猪瀬浩 父は全共闘世代のど真ん中の精神性の人なので、精鋭を育てる問題意識を強く持っている。今父自身が障害のある人になったと話したが、かって父は「農園ボランティアの人は自分が面倒を見られる人になったときに去り際



が良かったんだよ」と言っていたが、今考えると助ける人と助けられる人が明確に分けられていた。

子どもや障害者など、いろんな人がいられるように、でも事故が起きないようにどう回していくのか。良一さんが焚き火の前において、子どもも良一さんが不気味だから近づかないけれど、慣れてくると近づいてきて、そうすると危ない時は良一さんも声をかける。

代表の良一さんが障害のある人になったから、次の代表が一番働いている兄がやるべきではないか。良太氏が代表になって、関わっている人たちがそれぞれに考えを出し合う、新しいリーダーシップのありようを出していくことが大事なんだと考えている。

沖山 25年前埼玉障害者職業センターにいた時、キャベツの会を知り職場参加という言葉に出会った。

ハローワークの求人になじまない人の「就労的な居場所」探しに苦戦し、自閉的な傾向があり物言いがきつい男性をわらじの会の黄色い部屋へ、重度の統合失調症の女性をキャベツの会のよろづやにご案内し、デイケア的に通わせてもらったことがある。後者の女性は重度だから障害者年金も受給しており、それが一部のスタッフから妬まれて困ったことがある。ごちゃごちゃとして混ざっていくとこんな違和感も生じる。統合失調を開示して雇われた人を、社長が気に入りに、「精神の病気は気力で治せ。嫁さんを世話したいから薬を止めろ」と説得され、結局辞めざるを得なくなったことがあった。混ざって働くワクワクすることがある。



こういうエピソードをめんどくさいとせず、見て行って目が慣れていくことが大事だ。私自身は混ざり合

⑧

ってやっていくことについて、今も落ち着かない。混ざって出ていくと痛みがある、異物だから。でもへこたれずに今日もこの場を感謝してやっている私は素晴らしいと思う。
樋上 樋上は普通学級、小学校、中学校に行ったが、めんどくさい存在だったんだろうと思う。最近スマホなど便利な物が世界に広まっているもので、めんどくさいことはやりたくないのが本音。点数がいい人はいい学校に基本で、分けるのが当たり前、レンジでチンして3分ぐらいで温めたほうがめんどくさくないんだけど、樋上を出汁にぐつぐつと煮ていくというのも悪くはないんじゃないかと。そういう学校もあってもいいのかなと最近思っている。

山下 では、次にそうした経過を踏まえて、当面する状況を考えてみたい。この10年、障害者権利条約批准のための国内体制整備を通じて、きめ細かく分けられたシステムができてきましたが、その中での課題や重点的に取り組まれていること等をお話したい。

木村 学校の問題からいろいろな問題が見えてくる。障害のある子がいることで周りが迷惑しているのかどうか。先生は大変だけど、勉強にあきちゃった子は障害の子が飛び出していくことで救われる。一人手のかかる子を排除すると次に手のかかる子がターゲットになっていく。障害のいる子がいるクラスはそれなりのクラスになっている。

高齢者も同じ。猪瀬さんも焚火のところにいて役割が出てくる。だからその人がいることの意味みたいなものは一緒にいてみないとわからない。

今学校で介助員がいる。福祉教育の現場では困った人がいたらお手伝いしましょうかというんだよと教えているんだけど、学校では介助員がついていたら手を出さないと教える。結果的に同じクラスに3年もいるのに車椅子を触ったことがないということになる。車いすを押

1994年8月24日第三種郵便物承認

すのにもヘルパーの資格がいると思っている。そういう子が専門職として福祉産業の中に大量に投入されて行く。これがどこに向かっていくのか?

「共に育つ」の延長に共生社会がある。でも地域福祉は、要支援や要介護を国の事業から市町村に移したり安上がりにしようという論理になっている。そして、福祉は専門家の仕事で、それが障害者の権利を守ることだと。そういう論理と共育、共生のちがいをしっかり整理しないとだめだと思う。

猪瀬良 障害者になって感じるが、いろいろ規制がある。余計なお世話だと思うが、それはどうしようもないと思うけど。

猪瀬浩 パーキンソンは倒れたら危ないというのがあって、でも父は唐揚げを揚げてたりすき焼きをカセットコンロでやっていて、それで倒れたら危ないと。なんかあった時に困るということでやめてもらっているが、その悔しさを晴らす場所がないということですよ。

猪瀬良 やけどしてもいいんじゃない。

猪瀬浩 やけどだけだったらいいんだよ。

猪瀬良 まあそんなことですよ。

猪瀬浩 昔母親に、「兄の面倒はばくから弟や妹に見させないから」と言われていたのに、この頃は母から「良一さんの面倒を見ろ」と言われる。

どっちが性格がいいかと言ったら、絶対兄の方がいいでしょ。

兄の話はみんなにできるが、父の話はあまりできない。介護の話をしゃべれないしんどさって結構ある。

今農園に来ている人で、介護保険を利用する年齢になる前から農園に来ている人は、介護保険の年齢になっても農園を利用できている。介護保険の方に障害者福祉を合わせろというのではなく、障害者福祉で広げてきたことを高齢者福祉の方にも広げていくことが大事。

もう一つは、妻がシェアキッチンで起業しようとしていたら、「障害者福祉はもうかります、フランチャイズになりませんか」とか「障害者のグループホームで事業をしよう」という売り込みが来る。そういう業者は障害者と付き合ったことが全くなくて、軽い人を集めてやろうというイメージ。そのことを横浜の「地域作業所カブ



カブ」の鈴木さんが書いて、「軽い人を集めたところにいられない人がカブカブに来ていて、これは何なんだろう」と。

沖山 ふだんのつきあいがある、ないというが、つきあっているからいいということではない。障害判定と生きていくことのつらさって同じではない。グレーゾーンの中で暮らしている人が社会福祉士の資格とか、ピアカウンセラーの資格を取りたいとか、希望



を託す。でもそれで就職につながらない。れっきとした障害者はセーフティネットがあるが、そうじゃない人。は安い賃金で働いている、大きなことは話題になるが小さいことも風化させないようにしていかなければ。

樋上 木曜日の夕方、たそがれ一緒にいるという場をやっている。世一緒に集まって愚痴をこぼそうという



ことで、7年ぐらい続けているが、最近コロナの影響で事業所から帰りに寄ってくれている人が半分以下になっている。たそがれ時の3時間ぐらいですが、そこでふだん職場が違ったり学校が違ったりする人たちが何か食べながらワイワイやっていく場。僕としてはもうめんどくさいもんで、やめたいところなんです、やっぱり面白い話を聞くのが唯一の楽しみなもんで、樋上も聞いているという、それが無かったらもうやめたいなど、それだけです。

山下 ありがとうございます。では、最後にコメントーターのお二方からお願いします。

コメントーターから：

黒澤 本日は貴重なお話をありがとうございました。地域で共に過ごすということで、教育、農園、就労支援、お店などの事例を聞かせていただきました。普段の業務の中では、当事者の方のこうした話を聞く機会があまりないので、貴重な場となりました。本日



のテーマである職場参加という点では、本市でも障がい者就労支援センターを設置しており、当初は職場参加をすすめる会に運営を担っていただき、現在は別の事業者をお願いしていますが、地域適応支援事業の取り組みなどは大変先進的なものであると、改めて感じたところで

1994年8月24日第三種郵便物承認

内田 本日は、皆様の貴重な講演やディスカッションを聞かせていただき、ありがとうございました。地域共生推進課は昨年できた組織で、文字通り地域共生社会の実現を目指す部門として、この1年間取り組んできました。地域共生社会は、国の定義では「世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」となっていますが、具体的には、障がい者とか、高齢者とか、子どもとか、生活困窮者ですとか、分野を超えた庁内の連携体制や相談体制の整備、参加支援、地域づくりに取り組んでいるところです。越谷市は、他市の人と話していると、分野を超えた連携体制は比較的出来ていると感じています。

昨年この場で、地域共生社会の実現に向けて、「重層的支援体制整備事業」を来年度から実施しますが、いよいよ7月からスタートしました。重層的支援体制整備事業は、「相談支援」、「参加支援」、「地域づくり」を一体的に進める事業となっています。

今日のテーマにもキーワードとして「障害者の職場参加」という言葉がありますが、本市でも相談支援、地域づくりはある程度進んでいるのですが、参加支援が一番難しく、悩みながら進めています。本日の話を聴いて、あらためて包括的な支援体制の整備に取り組んでいかなければならないと思いました。ありがとうございました。

山下 小さいころから障害のある子もいない子も一緒に学び育つ延長にこの職場参加の取組があり、20世紀末から21世紀初めにかけて、埼玉県といくつかの市でさまざまな地域活動が行われ、ハローワークや職業センターとの接点もでき、一部は自治体施策にも反映されました(県庁内職場体験事業、越谷市障害者地域適応支援事業等)。

21世紀も20数年の現在、支援施策の拡大に伴い、子どもから高齢まで、人と人のつきあい方に新たな問題が生まれていることが各々から語られたと思います。当会の「職場参加」をはじめ、新座の「地域福祉」、見沼の「福祉農園」などさまざまな人たちが一緒にいることの大切さ。同時に、それに伴うすれちがい、ぶつかりあいをしっかりと受け止めて、共に生きるノウハウを蓄積していくことが問われていると感じました。皆様ご参加、ご協力、ありがとうございました。

せんげん台「世一緒」がこの4月からB型事業所になって職場参加をすすめています



(野菜の収穫)

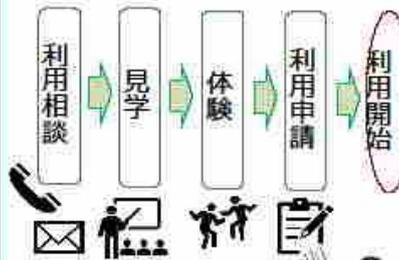
世の中、一緒だよ!

『障害のある人もない人も、
ともに街へ、職場へ!』



(ミカン祭り)

ご利用までの流れ



●そんなあなたにぴったりのB型です!

一般職場で体験・実習を経て就職、短時間就労しながら、職場の休みの日には地域での交流や生活づくりもしたい方

就労継続支援B型「世一緒」

時間をかけて作業や施設外就労しつつ、職場体験・実習もしながら、自分に合った就労と生活づくりをめざしたい方

- ・生活リズム作り、居場所作り
- ・楽しく取り組むグループワークで仕事体験
- ・さまざまな外部企業実習での職場体験
- ・一緒に行う仕事探しや会社訪問
- ・短時間(週20時間以上)、超短時間(20時間未満)で一般就労しながら、地域と交流して、生活の場を広げよう!

- ・生活リズム作り、居場所作り
- ・ゆっくり時間をかけて積み重ねる社会経験
- ・作業に応じて支払われる工資収入
- ・それぞれ個性と希望に合った就労をめざそう!

「世一緒」は、あなたのもうひとつの居場所。地域・職場の人と触れ合い、生活の場を広げることで、「働く力」「生きる力」を育むところです。



(市役所の横でも
毎週野菜を売ってます)

(職場体験中です)



世一緒はあなたの「働きたい、自立したい」を全力で支援します。まずはお電話か、ホームページからのメールで〜!

越谷にぎわいの会

水辺の市

出店者募集中

毎月
第2火曜日
10:00~14:00



場所: 越谷市役所東側 葛西用水沿道ウッドデッキ
主催: 越谷にぎわいの会
連絡先: 090(4203)4936(須長)

職場・地域ひろがりっしん

●越谷市、草加市、春日部市へ提言書

昨年12月3日(日)に開催した「つどい」の最後に発表した「共に働く街をめざす自治体提言」近隣3市の首長を訪問して手渡し、懇談いたしました。20年近く続けています。



2月6日、越谷市・福田晃市長に代表理事より提言を手渡し、市長のほか教育センター、経済振興課、福祉部、障害福祉課、契約課、人事課等の方々をまじえて懇談しました。山田市議、清水市議に同席いただきました。



同日、草加市・山川百合子市長に代表理事より提言を手渡し、草加市でパン工房を運営するNPO法人自立センターめだかの坂口さん、原さんもまじえて懇談を行いました。関市議に同席いただきました。



2月10日、雪の中、春日部市を訪問し岩谷一弘市長に代表理事より提言を手渡し、地域活動支援センターパタパタの方々もまじえて懇談しました。古沢市議に同席いただきました。

●画期的！知事公館を開放し県がかっぱ支援



一社・埼玉障害者自立生活協会が運営協議会事務局を務める県庁内福祉の店「アンテナショップかっぱ」は、県内各地の障害者施設等から交代で店番に入ることによって運営が維持されていますが、福祉制度等の支援はなくいつも経営危機。

⑥

今回県が初めて独自企画でかっぱ支援を行いました。桜が見事な知事公館を開放、SAMさんの健康ダンスなどを用意。かっぱがフェスタで相乗りできるように。

かっぱ店番には、たそがれ世一緒管理人の樋上さんから、当会障害者らが数人参加しています。県庁にご用事がある時は、第2庁舎1階のかっぱにもどうぞ！

●水上公園花壇整備共同作業を終了します



16年間にわたり続けてきた県営しらこぼと公園の花壇整備共同作業をこの5月で終了いたします。

長年契約を重ね、温かく見守って下さった公益財団法人埼玉県公園緑地協会様には、感謝と共に辞退の申し出をさせていただきました。

終了後、この16年間のふりかえりを行い、今後の課題を探ることで、皆様にお返しが出来ればと思っています。

すいごご FLASH

●2月22日 廣瀬 邦子さん(高齢者施設介護職)



小学校3年生まで歩けなかった。現在も市役所からの書類等が読めないといった学習障害があると語る。結婚の経験もあり、現在は

一人暮らし。「私は道を覚えるのが苦手。電車の路線も苦手で、前は切符を買うのが大変だったが、いまはSUICAができたので気楽になった。利用者さんと付き合ってるのがいちばん楽しい。」

●3月8日 須賀 保昭さん(ケアラー&介助者)



須賀さんは「人間やっぱり通じないかもしれないけど、通じたらうれしい。伝わってないかもしれないけど、なんとなく伝わってたらうれしい。母も『目が視えないからわからない』

って言うけど、なんとなく通じたらうれしい。」と答えていた。

障害者グループホームで夜勤をしている参加者から、「相手の気持ちがわからないから、自分が不安になってくる。こっちがびびっているのが、相手にわかっちゃう。どうしたらいいか。」と質問した。

須賀さんは、「自分が不安になったら、口に出してとりあえず言ってみるのがいいと思います。こっちが黙っちゃうと相手が不安になるし」と答えていた。

●3月15日 東 亨さん(東光商事取締役)



宅建業を営む東さん。駐車場のご縁。越谷に生まれ育ち、今世一緒がある辺りでカブトムシやクワガタ、ウサギ、キジと遊ぶ。学校の先生に秩父の化石を教

えてもらい化石に魅せられた。まちの化石博士。越谷市中央民会館を「バブルの遺跡」と呼ぶ人がいて、「会館に貼ってある大理石にアンモナイトがあるから探してごらん」と教えられたという話も。

●3月29日 並木 理さん(自立生活協会事務局員)



とがっていた青春。ひきこもり。自らは30歳になるまで自分なりの勉強をして、そして働くんだと公言。やがて、俺の気持ちを分かってくれないのかと、母親に水をかけたり家の壁を壊したり家

族の空気が煮詰まってゆく。

そして、両親、保健所、警察の協力で、留置所に入れられ、そこから精神病院の閉鎖病棟に6ヶ月入院させられた。この入院期間の大半の記憶がないという。その断片が折々の拍子に、デジャブのように、辛い記憶が浮かび上がってくるのだという。

退院後、ヘルパー資格を他人の2、3倍かけて取ったころ、現在も所属先であることこの家の代表の瀬井さんに父親が出合い「ヘルパー2級をお持ちならば電話をかけてもらってもいいですよ」との言葉をかけられる。とことこの家の事務所で面接を受け、「社会のありがた、ありようとして、障害の軽い人が重い人の介助をしたっていい」との瀬井さんの言葉に感動を覚え、少しずつ働き出したという

●4月26日 木村 浩章さん(CILひこうせん事務局長)



「障がい者が障がい当事者になる時—不良障がい当事者の悪あがき論」と題してトーク。

自己紹介ののち、障がい者=障がい当事者ではないと語る。障がい者は、社会的障壁にぶつかった時初めて「障がい当事者」になるのだと。しかし、障害福祉サービスやバリアフリー化、養護学校義務化、相談支援員とサービス利

用計画の存在によって、障壁が見えにくくなり、障がい当事者がいなくなってきたと。

しかし、木村さん自身、相談支援員として100件を担当している。それは、あえて障がい当事者が関わることで、矛盾の中から障壁の存在を可視化し、共に当事者になってゆくプロセスなのだと。

行田市では(仮称)行田市障がい者差別解消推進条例~共生社会づくり条例(素案)ができ、今年12月の障害者の日に正式に制定予定という。木村さんはこの条例検討のための委員会で積極的に障がい当事者として活躍した。

■ 環状線(全線) ■ 2023年5月(暫定) ■ (2023年5月暫定)

2023年4月		2023年4月		2023年4月		2023年5月	
日中行事	注	日中行事	注	日中行事	注	日中行事	注
19日 月	水戸線(水戸駅)開業	19日 水		19日 土		19日 月	
20日 火	水戸線(水戸駅)開業	20日 木		20日 火		20日 土	
21日 水		21日 金		21日 水		21日 日	
22日 木		22日 土		22日 木		22日 月	
23日 金		23日 日		23日 金		23日 火	
24日 土		24日 月		24日 土		24日 水	
25日 日		25日 火		25日 日		25日 木	
26日 月		26日 水		26日 月		26日 金	
27日 火		27日 木		27日 火		27日 土	
28日 水		28日 金		28日 水		28日 日	
29日 木		29日 土		29日 木		29日 月	
30日 金		30日 日		30日 金		30日 火	
31日 土		31日 月		31日 土		31日 水	

この中、リハビリを兼ねた(時間外)のグループです。グループでやるので、初めての方でも大丈夫です。は、乗客の乗降の遅延等、その際、乗客のための遅延や乗客の乗降です。乗客のある人や物の人々が日替わりバスとなって、乗客は乗客の乗降を兼ねる乗客の乗降です。

すいごごカフェ 5/10~6/21 1時半のゲスト 	
5月10日(水) 山崎 昭二さん 人形のひな源	<h2 style="color: #0070c0;">越谷いのちと生計のまち</h2> <p>15歳で人形職人の徒弟、26歳に人間国宝の人形製作者に弟子入り、国民文化祭で戯曲発表、政府税関で意見陳述等で活躍。しらこぼと笛の作者。生命を育んできた水のまち、たくましく複雑な生計(たつき)のまちの軌跡を証言。</p>
5月17日(水) 武井 ゆきさん 蕎麦屋のアルバイト	<p>パートしながら地域の</p> <h2 style="color: #0070c0;">ボランティアを楽しむ</h2> <p>蕎麦屋の娘として育ち、食べ物で人を癒したいとの思いで給食のおばちゃんになったが、心が疲れてしまい退職。実家に帰るもまた家族との人間関係で悩み、乗り越えた解決法とは。</p>
この日はLunch Cafe どっこいしょ	
5月24日(水) 山崎 泰子さん バイオリニスト・当会理事 会場はせんげん台世一館	<h2 style="color: #0070c0;">なぜいまここにいるのか</h2> <p>オーケストラの団員同士で結婚し、障害児の母となり、子育てに専念。障害をありのままに他者と共にと、一緒に街に出て生きる。他の親や障害当事者と縁が結ばれ、さらに当会の活動へ。あらためて生の原点に回帰して語る。</p>
5月31日(水) 森田 貞次さん 太郎鍛冶屋当主	<h2 style="color: #0070c0;">どこにもない実用的な逸品</h2> <p>「誰も作ったことのない、実用的な逸品の製作-これが私の特徴だと思います。もしかすると、憧れだった祖父のDNAが成せる業なのかもしれません。」現代の「村の鍛冶屋」の作品と思想を学ぶ。</p>
6月7日(水) 6月14日(水) 未定	<h2 style="color: #0070c0;">トークゲスト自薦、他薦求む</h2> <p>このカレンダー作成時点ではゲストが決まっていません。ゲストトークをしたい方、ゲストとして招きたい人、おられれば職場参加ビューロー世一館までご一報下さい。</p>
6月21日(水) 水谷 淳子さん 耳鼻科開業医	<h2 style="color: #0070c0;">5類になったコロナ総まとめ</h2> <p>普通の風邪並みになったはずなのに、人々の意識は大きく変わった。最悪のワクチン被害もほぼ放置され、有害な子どものマスクもそのまま。莫大な財政を投入してのワクチン開発に拍車がかかる明日をどう生きるか?いま総まとめの時。</p>

2022年度会費、寄付、協力費、かきくけP費ご納入ありがとうございました
 前号までの追加分のみ掲載させていただきます(五十音順、敬称略)

【寄付】東 亨、松尾晃史、山田裕子、山中律子

2023年度会費、寄付、協力費、かきくけP費ご納入ありがとうございました
 (五十音順、敬称略)

【正会員会費】有竹和子

【賛助会員会費】島根淑江、大武昭

【寄付】大塚眞盛

今回はせんげん台「世一緒」特集です!

世一緒スタッフ日記

じこアピールというかんじ

須藤 雅春

いつもどおりくるしごとにおいていつものやりかたによるしごとについての答え方によるほうこうのつこうじようによりいつものためのやりかたをほうけんすることによることによる

いつものことによるのうさぎようはんこといんかいをしいてかんじにしていくしごとのないようにより答え方をまいをしないようにしていくつものそれからのしごとによるじかんによるつきんつごうによるしごとついかをいつもことのようにこれからもいくつまでもよりよく仕事づつをくりかえされていつもそれからのじかんについてしごとをおさめるようにする。

介助の仕事をしています

萱場 由梨

私は世一緒でみまもりながら仕事をこなしています。お風呂の介助には

二〇二三年五月十八日発行(毎月十二回 二と四と六と八の日)
一九九四年八月二十四日第三種郵便承認
発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 〒333・0851

東越谷の職場参加ビューロー世一緒では、障害や病気その他の状況による働きづらさを、他の人々と共有し生きるためにして生きるために、世一緒に関わっている人々を「スタッフ」と呼んでいます。サポーター(非常勤やボランティア)の支えを受けて、世一緒の当番(ピアサポート実習)や「語る会」、身近な地域で必要とされる仕事(花壇整備、除草、ポスティング)のグループワーク等もしています。元スタッフ等からの近況報告も紹介します。その後せんげん台に就労移行支援・就労継続支援B型多機能事業所「世一緒」が開所しました。こちらは制度により定められた職員がおり、障害のある人はサービスの利用者という立場です。ただし、このサービスは障害のある人々が地域で「お客様」でなく自分自身の人生の「当事者」「主人公」として生きるための支援です。だから「お客様」の立場に甘んじることなく、事業所「世一緒」のサービスや職員の働き方についても、「我が事」として関わってよいのです。自分にとっていちばん身近な支援スタッフは自分自身だという意味で、東越谷、せんげん台どちらの関係者かに関わりなく、このページを提供します。

ったり人のめんどうみたり泊まり介助と仕事している人です。いっぱいかつどうしてわかりません。うらわの県庁とか販売しています。

千間台世一緒で

石丸 洋介

皆様初めまして私は石丸洋介と申します。

私は神奈川県川崎市溝ノ口育まれで、当初川崎病と言う心臓病になり母と医師の必死の看病の元完治しました。

我々家族は私43年間生きて来て再親の仕事の関係で18回引越しをして私が24歳の3ヶ月ひきこもり、父親の内縁の女性に病院に行った方が良くと言われ統合失調症と鬱病になり今に至ると言う事でせんげん台世一緒で活動させて頂いています。

自己紹介

佐藤 俊朗

僕は市役所で3年間いました。仕事をしていました。こうたいへんでした。たくさん仕事が入っています。

千間台に来て二年生に

森住 由香里

私は、世一緒に来てもうすぐ二年生になります。世一緒きてからも何社かがめんせつしました。たがどれもこれもおちています。そのたび心もおちて泣いてしまっています。世一緒のメンバーにすくわれています。あきらめてはまたすすんでのくりかえしひびをきどあいらく通巻五三四三号

いろいろはたらきたいです

高野 弘樹

獨協大学越谷病院の作業りようほう室から紹介してもらい、初めてきたのがきっかけで世一緒に来る事になりました。

初めは、何をやればいいか、わかりませんでした。最近はなれてきたせいか、皮細工とか、野菜取りとか、こうこく折りとか、いろいろな仕事を、少しずつですが、できるようになってきています。これからもよろしく、お願いいたします。

一度、世一緒の紹介で、クロネコヤマトの宅急便にそうじのアルバイトにはたらきに行きました。あとはリンガーハットに除草しに行ったり、ドイツさんの所にも行きました。あとはしらこぼと水上公園に行っているいろいろと園芸とかをやっています。これからも、いろいろな所に行ってはたらきたいです。よろしくお願いたします。

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会
本部：職場参加ビューロー世一緒 埼玉県越谷市東越谷 1-1-7 須賀ビル 101
048-964-1819 (fax 共) shokuba@deluxe.ocn.ne.jp
せんげん台「世一緒」(就労継続支援 B 型事業所、指定特定相談支援事業所)
埼玉県越谷市千間台西 3 丁目 1-16
048-971-8038 (fax 共) dokkoisyo3116@yahoo.co.jp

2023年5月18日発行 毎月12回(2と4と6と8の日) 通巻5343号

1994年8月24日第三種郵便物承認